

平成 16 年度岩手県立総合教育センター

# 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の 推進に関する研究

(第1報)

研究協力員

盛岡市立杜陵小学校	教諭	小野寺 俊 哉
花巻市立花巻北中学校	教諭	中 村 雅 子

プロジェクト班  
畠 山 剛  
牧 野 和 男  
八重 檉 久美子

## 《目次》

研究目的	1
研究の年次計画	1
本年度の研究内容与方法	1
研究結果の分析と考察	2
1 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想	2
(1) 全体計画の作成の必要性について	2
(2) 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方	3
(3) 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想図	5
2 先進校事例の分析と考察	5
(1) 事例分析の視点	8
(2) 分析と考察	8
3 総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案	13
(1) 総合的な学習の時間の位置付け	13
(2) 総合的な学習の時間と児童生徒の学び	13
(3) 総合的な学習の時間のカリキュラム	14
(4) 総合的な学習の時間における地域社会との連携	15
(5) 先進校事例における全体計画作成のための改善点と特色について	17
(6) 確かな全体計画作成のための推進試案	20
4 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ	22
(1) 成果	22
(2) 課題	22
研究のまとめと今後の課題	22
1 研究の成果	22
(1) 全体計画の作成についての基本的な考え方の検討と基本構想の構築	22
(2) 総合的な学習の時間についての先進校事例の分析と考察及び確かな全体計画のための推進試案の立案	22
2 今後の課題	23

## 研究目的

総合的な学習の時間は、学校の教育活動全体の位置付けを明らかにする全体計画の作成のもと、適切な目標や内容の設定によって実施されることが重要である。また、その全体計画に基づいて教育活動が行われ、児童生徒に必要な力を身に付けさせたかどうか、指導の適切さを検証・評価し不断に改善を図りながら学校や児童生徒の実態に即して実施することが必要である。

しかし、本県における総合的な学習の時間の事例等によれば、年間指導計画の作成、目標・内容・評価の適切な設定、体験的な活動や各教科等との関連付けなどが課題となっているとの実態があり、各学校において全体計画の作成という視点から、総合的な学習の時間を見直すことが求められている。また、平成 15 年 12 月 26 日の文部科学省通知によって、各学校において総合的な学習の時間の一層の充実のため、全体計画の作成が義務づけられるよう改正がなされていることを踏まえ、全体計画の作成について改善を要し手だてを講じる必要性が生じている。

このような状況から、総合的な学習の時間の充実を図るためには、目標や内容、評価、各教科等との関連を明らかにした、総合的な学習の時間についての確かな全体計画を構築する方法や手順を具体的なものとする必要があると考える。

そこで、この研究は、小・中学校における総合的な学習の時間を推進するに際して、学校の教育活動全体における位置付けを確かめ、全体計画作成のための要件を明らかにした「手引き」の作成を行い、確かな全体計画の構築に役立てようとするものである。

## 研究の年次計画

この研究は、平成 16 年度から平成 17 年度にわたる 2 年次研究である。

### 第 1 年次（平成 16 年度）

全体計画の作成に関する基本構想、全体計画作成のための先進校事例の分析及び推進試案の立案

### 第 2 年次（平成 17 年度）

推進試案に基づいた実践、実践結果の分析と考察、全体計画作成のための「手引き」の作成

## 本年度の研究内容と方法

### 1 目標

全体計画の作成についての基本的な考え方を検討し、基本構想を構築するとともに、総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案を立案する。

### 2 内容

#### ア 全体計画の作成についての基本的な考え方の検討

全体計画の作成についての基本的な考え方をまとめ、検討を加える。

#### イ 基本構想の構築

基本的な考え方に基づき基本構想を立案する。

#### ウ 総合的な学習の時間についての先進校事例の分析及び考察

先進校事例の分析及び考察を行うことにより、全体計画作成の要件について検討を行う。

#### エ 確かな全体計画のための推進試案の立案

基本的な考え方と先進校事例の分析及び考察をもとに、推進試案を立案する。

### 3 方法

ア 文献法      イ 事例分析

## 研究結果の分析と考察

### 1 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想

#### (1) 全体計画の作成の必要性について

##### ア 学習指導要領改正等から

##### (ア) 学習指導要領一部改正について

総合的な学習の時間の実施上の課題として、「…学校において具体的な『目標』や『内容』を明確に設定せずに活動を実施し、必要な力が児童生徒に身に付いたか否かの検証・評価が十分行われていない実態や、教科との連携に十分配慮していない実態、教科の時間への転用も指摘されているところである」「児童生徒の主体性や興味・関心を重視するあまり、教員が児童生徒に対して必要かつ適切な指導を実施せず、教育的な効果が十分上がっていない取組も指摘されている」と示された。これらの課題を受けて当面の充実・改善方策の一つとして、各学校における取組内容の不断の検証等の必要性から「各学校においては、…（略）…学校の教育活動全体の中での『総合的な学習の時間』の位置付けと意義を明確に意識することが求められる。具体的な取組としては、各学年の『目標』・『内容』を含めて『総合的な学習の時間』についての『学校としての全体計画』を作成し、…（略）…」として、総合的な学習の一層の充実のための取組が求められた。

そして、平成15年12月の一部改正によって、総合的な学習の時間の取り扱いに「4 各学校においては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示す総合的な学習の時間の全体計画を作成するものとする」と明記され、各学校において全体計画を作成することが定められた。

##### (イ) 本県における現状について

資料として収集した全体計画及び指導計画、学校公開資料等からみると、本県においては、様々な単元や題材についての実践が工夫され、学年ごとの指導計画として整備されてきている。しかし、題材の配列表や学年ごとの指導計画を集めた段階に留まっている状況も見られ、学校教育目標や育てたい児童生徒像との関係等を明確にした活用に資する全体計画の作成について、多くの学校は至っていないという実態が見えてきた。したがって本県においても、答申と同様の課題が懸念されており、全体計画の作成が求められる。

##### イ 学校の教育活動から

##### (ア) 総合的な学習の時間に関する教育課程編成上の課題

総合的な学習の時間は、各教科等とは異なり「時間」として学習指導要領に位置付けられている。そのことから生じる問題として、目標や内容（指導事項のみならず、付けたい力までを考慮したもの）が明確に記述されていないことから、以下のような事柄が実態として考えられる。

- ・自由に扱える「時間」として学年ごとの裁量などにゆだねられてしまっていること
- ・裁量で固めた時間枠の合計をもって年間計画として指導計画レベルを作成し、学校全体の計画をそれら全学年の指導計画の累積と等しく考えていること
- ・学校の教育活動への対応のための時間として便宜的に用いられ、総合的な学習の時間の目標達成を目指して取り組まれていないこと

(1) 教育課程編成からとらえた「確かな全体計画」

総合的な学習の時間は、学校や地域、児童生徒の実態に応じた教育課程の編成が第一に求められる。どのような内容、どのような題材や単元を扱うのかを定めるのはそれぞれの学校であり、その際、児童生徒の学びの状況を最もよく理解しているのは教師自身である。「時間」が効果的に運用され、よりよい学びとなるよう教師は考えながら遂行しなくてはならない。その際、「確かな」全体計画は、教師が総合的な学習を進める上で必要な指針とするものとなる。全体計画をもとに学校の基盤となるものを押さえ、学校教育目標や願いの達成にふさわしい企画が立案され、成果や課題を検証するための視点を明らかにするものである。「全体計画」は、単なる学年ごとの指導計画の集積ではなく、学校の全教育活動をとおして行うものとしての計画であり指針となる。「確かな」ものとして学校の様々な教育活動の総体における位置付けを明確にすること、すなわち「確かな全体計画」の作成が求められているのである。

以上のようなことから、総合的な学習の時間の「確かな全体計画」を学校の教育課程全体の中に明確に位置付ける必要があり、そのための検討が各学校において行われなければならない。

(2) 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方

ア 全体計画の作成により総合的な学習の時間を学校教育活動全体に位置付ける意義

(ア) 特色ある学校づくり

総合的な学習の時間は、児童生徒の実態や地域の実態という「学校の地域における基盤」を踏まえ、直接体験や地域の素材を学習の材料として単元や題材に取り上げて教育課程を編成する。企画や実施にあたっては、地域素材の適切さや体験活動のふさわしさ、また、学校や地域の施設設備や地域との連携の在り方、地域からの子供たちへの願いなど、総合的な学習を支えるものや要望を吟味して進める。それらをとおして、学校の教育活動が地域社会にふさわしいものかどうか明確にできるのである。全体計画は「学校の地域における基盤」を明らかにし、学校のあるべき姿の輪郭を描き出し、特色ある学校づくりのため役立てられるものとなるのである。

(イ) 多様な学びの構成

教科はそれぞれのねらいのもと達成すべき目標があり、固有の「内容」を持って構成されている。教科によって知識や技能の習得、教科の活動をとおして育まれる力などもあるが、内容が価値を持っており身に付けることによって学ぶという特質がある。特別活動や道徳に関しては、「活動」をとおし成すことによって学ぶという特質を持っている。例えば「互いを思いやる心」などは、特別活動や学校行事によって協力したり意志疎通を図ったりしつつ体験を重ね、道徳によって互いの考えを深めながら実践するようになることが求められる。活動そのものに含まれている行為を通じて価値を理解するというようなことである。

総合的な学習の時間は、内容と活動における両者の価値の習得に伴う学び方のよさやエッセンスを生かしながらカリキュラムを編成できるため、多様な学びを構成できる。それは、総合的な学習の時間と各教科等との関連についても、同様のことが言える。内容や活動そのものの関係だけではなく、学び方の性質の面から関係付けられ、学びの深まりや広がりなどが期待できる。現代的教育課題を題材にした場合、教科の学習が課題を解決するために生かされ、学校行事において設定された地域との交流活動や働きかけに結び付き、教科の学習や教育活動に理解や深まりだけではなく意味付けを行うことができる。それは児童生徒にとって、意義や意欲の点からも効果が大きいものと考えられる。

(ウ) 教師の役割と力量形成

総合的な学習の時間の推進に際して、教師がそれぞれの持ち味でその力量を発揮することへの期待がある。総合的な学習の時間は教材、教具レベルではなく単元構成から全体との結び付きまでの広い視野でカリキュラムを構成しなければならない。そのため、教師自身の教育にかかわる見方や考え方が大きく影響されることから、教師の力量形成が求められるとともに、各種の連携がよりよい形で機能されるよう個々の教師が、学校の教育活動全体について目を配ることが必要になる。

カリキュラムという言葉は「学びの履歴」がその語源となっているが、児童生徒の「学びの履歴」として、教科のみならず教育活動全体をも視野に入れて「授業を基盤にしたカリキュラム開発のあり方が探求され、実現されなければならない」ともいえるであろう。

総合的な学習の時間は、カリキュラムそのものが先に述べた「内容」と「活動」との関係などの多様な学びをもって構成しなければならないため、いろいろな学び方の性質の違いを引きだせる可能性を持っている。教師が独自のカリキュラム開発を行い、指導や実践を重ねながら児童生徒にふさわしい形で授業が提供されていく。カリキュラム作成のノウハウが、各教科等のカリキュラム開発や指導にも生かされ、指導の改善が行われるということからもカリキュラム開発者としての教師像が求められ期待されているといえる。

イ 「確かな全体計画」の作成を推進するための基本的な視座

次の四つの基本的な視座によって「確かな全体計画」の作成を推進するものとする。

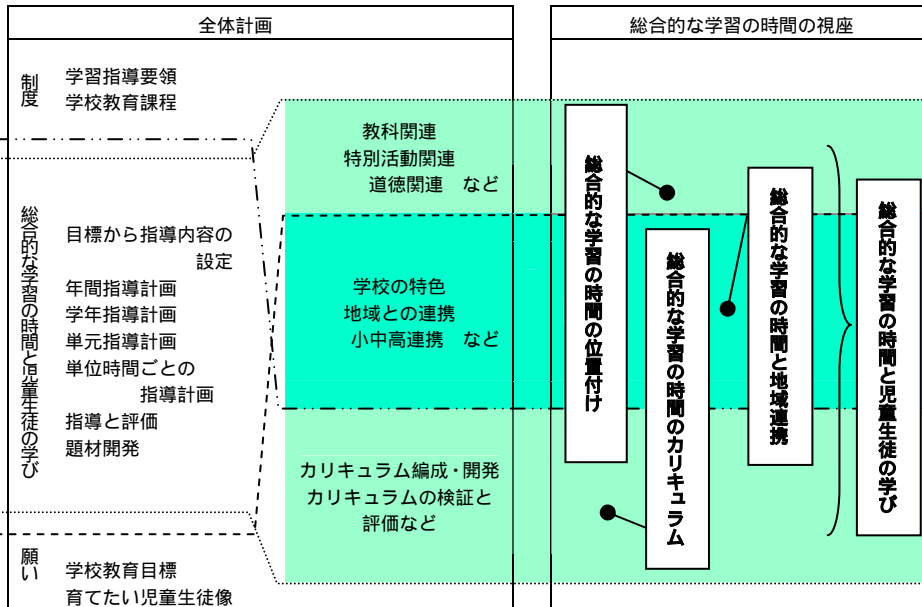
<p>総合的な学習の時間の位置付け</p> <p>…教育活動全体における総合的な学習の時間の位置付けを明らかにする</p> <p>総合的な学習の時間と児童生徒の学び</p> <p>…指導過程や各教科等との関連の在り方を明らかにする</p> <p>総合的な学習の時間のカリキュラム</p> <p>…教師の指導支援の在り方と求められる教師の役割や力量等について明らかにする</p> <p>総合的な学習における地域社会との連携</p> <p>…地域の支援を生かすとともに成果を地域に還元し、特色ある学校の在り方を明らかにする</p>
---

学校の目標とする児童

【表1】確かな全体計画と視座との関係

生徒の育成に結び付いているか、検証や改善に役立てられる計画とするためには、それぞれの事柄が互いに関係しあったものとしてとらえる必要がある。全体計画の作成が、必要とされる事柄を羅列するだけのものにとどまってしまうならば、作成された段階で計画としての目的を失ってしまう。

全体計画に必要な事柄



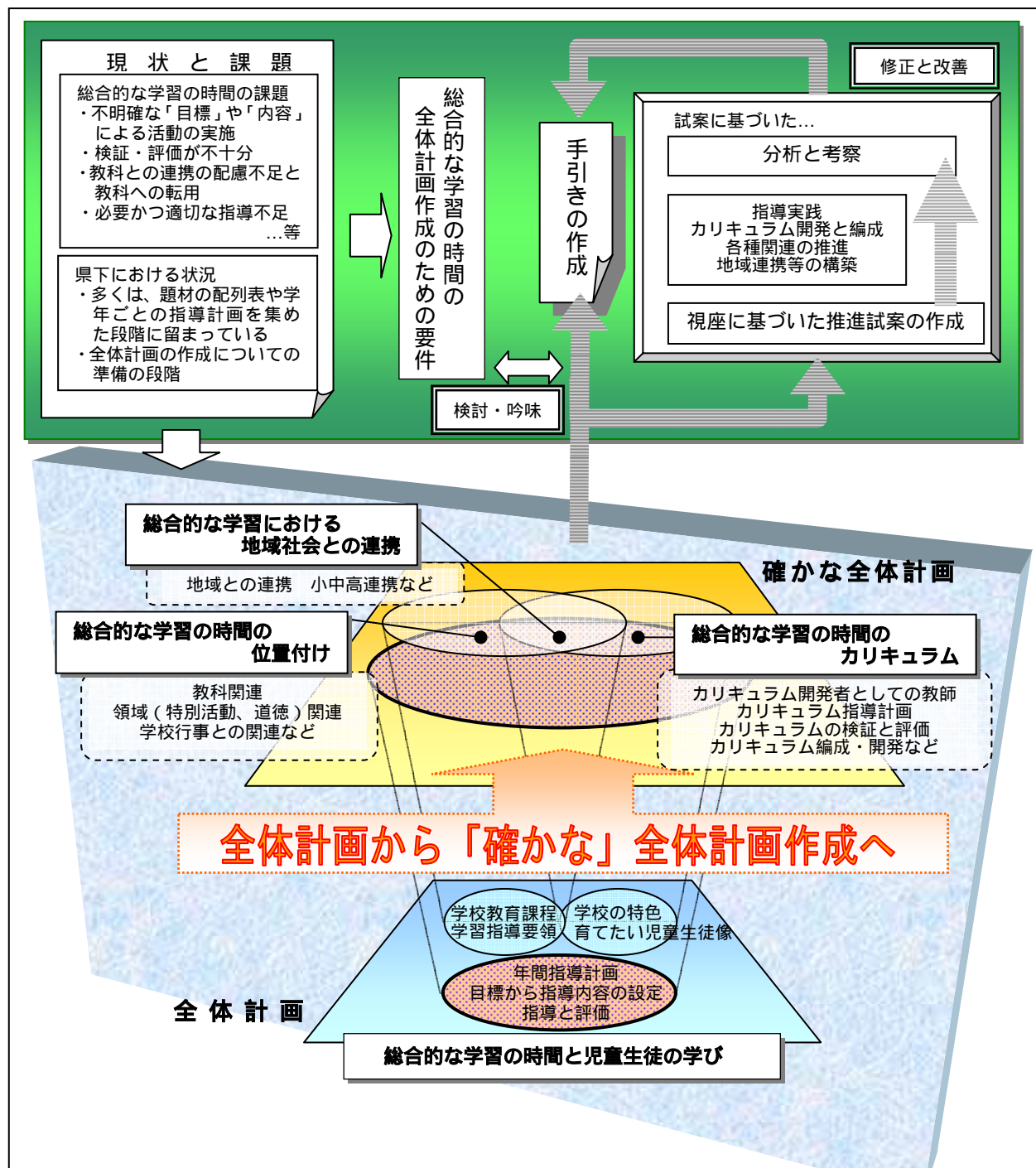
については、【表1】に示すように重なりあう関係を持つものとしてとらえ、それぞれの在り方や考

え方を明らかにしていく必要がある。

そこで、先進校の全体計画の分析と併せ、確かな全体計画の要件について基本的な視座から検討を加え、試案の作成に役立てるものとする。

### (3) 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想図

以上のことから、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想図を下の【図1】のように作成した。



【図1】 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想図

## 2 先進校事例の分析と考察

本研究を進めるにあたり、先進校事例の収集に努め、多くの事例を得ることができた。

ここでは、研究協力員の所属校である盛岡市立杜陵小学校並びに花巻市立花巻北中学校の全体計画（次頁資料1・2）を適宜例に挙げ、次項のとおり分析と考察を試みた。

校訓「大志」

- ・日本国憲法
- ・学校教育法
- ・教育課程審議会答申
- ・岩手県学校教育指導指針
- ・教育基本法
- ・小学校学習指導要領
- 等

学校教育目標  
 明るくおもしろい子（徳）  
 進んで学習する子（知）  
 健康でたくましい子（体）

- ・児童の実態、児童の思いや願い
- ・学校や家庭、地域の実態
- ・保護者、地域の方々の思いや願い
- ・社会の要請
- ・教師のねらい

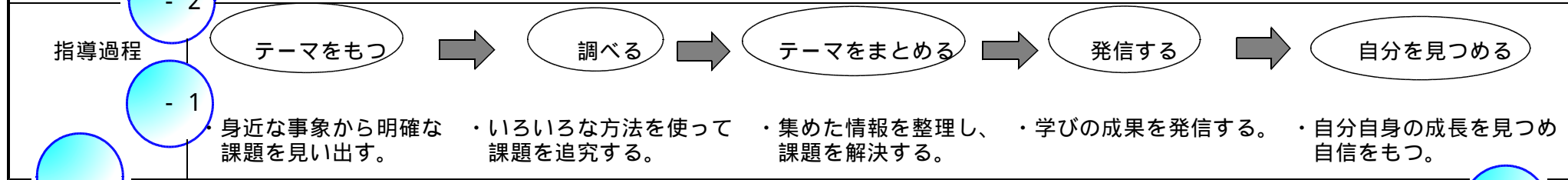
総合的な学習の時間の目標  
 体験的な学習や問題解決的な学習等を通して、地域の素晴らしさに学びながら、児童に自ら学び自ら考える力を育成し、学び方やもの考え方を身に付けさせるとともに、自己の生き方について考えることができるようにし、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが相互に働くようにする。

総合的な学習の時間において身に付けさせたい3つの力

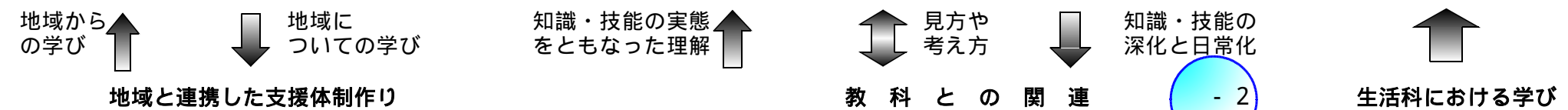
- 学び方**  
課題解決的学習過程や、追究のためのいろいろな学習活動の仕方を習得する。
- 自分の考えをもつ**  
論理的な考え方をし、自分の考えをつくりだす。
- 学びを生かす**  
各教科で得た知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活においてつかう。

	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
各学年の目標	課題解決的な学習の進め方を体験を通して友達や教師とともに学び、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり、前後関係をつかんだりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する	課題解決的な学習の進め方を体験を通して自ら学び、課題の設定の仕方、情報の収集の仕方やまとめ方を身に付け、事象を比較したり要因を考えたりしながら筋道立てて自分の考えをもつとともに、活動の中で各教科等での学びを生かす力を育成する。	自ら明確な課題を設定し、課題解決のために、様々な調査活動を行い、分かったことに自分なりの考えをもつことを通して、人、物、ことと自分とのかかわりを多面的にとらえ、生き方を見つめるとともに、各教科等での学びを意図的に関係付けていく力を育成する。	新しい学びを獲得しようと、学んだことを学びつけたり、応用したりしながら、自分の考えを深め、見通しをもって自ら課題を解決することを通して、自分と社会とのかかわりを見つめ直しよりよい生き方や考え方をめざそうとする力を育成する。

評価の観点	活動への関心・意欲・態度	総合的な思考・判断（自分の考えをもつ）	活動にかかわる技能・表現（学び方）	総合的な知識・理解（学びを生かす）
-------	--------------	---------------------	-------------------	-------------------



単元名	時数	105	105	110	110
環境単元 生地 域 の た 特 単 色 元 を 地 域 の そ の 他 の 単 元	環境単元	・ホテル探検隊	・タンポポ探検隊	・パワフル、中津川探検隊 ・大きくなってね竹の赤ちゃん	・環境のそぼろ弁当
	福祉	・やさしさに出会う町、肴町	・体験、まちのボランティア	・広げよう、わたしたちにできること - お年寄りとともに -	・創ろう、人に優しく、心豊かなまち
	国際理解	・発見、発信、杜陵ならではのひみつ	・さぐるう、郷土の伝承文化 ・知ろう、学ぼう、まちの先人たち	・世界の国にこんにちは	・世界を知ろう、わたしが伝えたい日本のよさ
	地域	・チャレンジ、キッズマート肴町	・作ろう、わたしたちの郷土読本	・プロジェクトMT5	・調べてブラボー 発見ワンダフォー 仙台・盛岡 愛Q
その他の単元	・体のひみつをさがれ（健康） ・本はともだち（絵本作り）	・新聞記者になろう（情報）	・パソくんこんにちは（情報）	・見つめよう食（食） ・わたしの卒業（個人）	
		・オリエンテーション	・こずかた学習会	・一年のふりかえり	



- 地域の教育的資源の活用
- ・文化的行事
  - ・地域のフィールド等（岩手公園、中津川ホットライン肴町等）
  - 地域施設・機関の活用
  - ・市役所
  - ・岩手日報
  - ・NTT
- 地域の方々からの協力、支援
- ・老人会、町内会、商店街等
  - 地域からの専門家からの協力、支援
  - ・伝統工芸士
  - 地域の人材バンク
  - 知識人からの協力、支援
  - ・みちのく岩手カップ村長
  - ・ホテルを守る会会長

- 家庭と連携した支援体制作り
- 支援ボランティア
  - 家庭への広報活動
  - ・安全面
  - ・作業面

教科	教科等で培った力を発揮し総合的な学習の時間でさらにのばす。
国語	・相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりすること ・相手や目的に応じて、筋道を立てて文章を書くこと ・目的に応じ、内容の中心を考えたり、要旨を把握したりしながら読むこと
社会	・社会的な事象を的確に観察・調査し、各種の資料を効果的に活用し、調べたことを表現すること
算数	・事象を数理的にとらえること ・数量や図形についての表現や処理にかかわる技能
理科	・自然事象の性質や規則性、相互の関係等への理解 ・観察・実験の技能と、過程や結果の的確な表現

- 生活科における学び
- ・教科の学びをつかう
  - ・考えたり工夫したりする。
  - ・自分を通じた気づきをする。

- 道徳指導の重点
- ・生命尊重
  - ・思いやり、親切
  - ・不撓不屈・尊敬感謝
  - ・郷土愛
  - ・自然愛



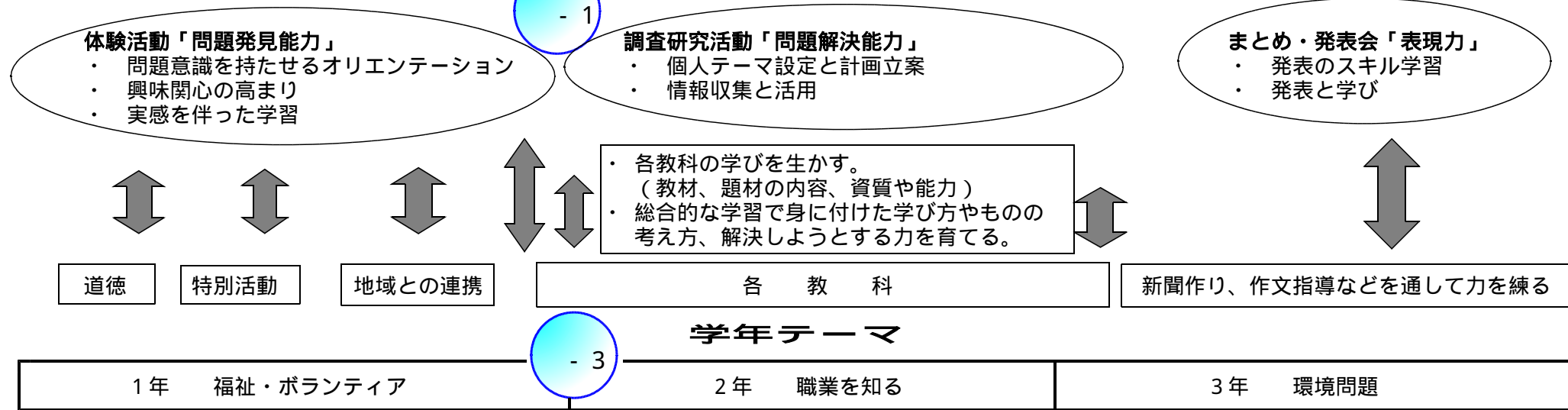
学校教育目標  
心豊かで、たくましく生きる人に  
1 進んで学習し、思慮深い生徒（自主）  
2 強い心でねばり強い生徒（実践）  
3 心豊かで、協力する生徒（協調）

・学習指導要領  
・岩手県学校教育指導指針  
・花巻市教育目標

・生徒の実態  
・父母・地域の願い  
・教師の願い  
・今日的課題

「総合的な学習の時間」目標  
人に学び『生きる力』の育成を図る - 自立と共生 -  
「読む、聞く、書く、話す」力を育て、発展させる。  
「調べる、まとめる、表現する」力を育て、自信と誇りを持たせる。

学び方「身に付けさせたい力」



目指す生徒像

<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化社会や障害を持つ人々に関心を持ち、意欲的に調べようとする生徒</li> <li>・高齢化社会や障害を持つ人々に関する問題解決のための技能、思考力、判断力を持った生徒</li> <li>・活動の中で、「学び方」を身に付けると共に、自分の考えを他に工夫して伝えられる生徒</li> <li>・ボランティアの精神に気付き、自分でも何らかの形で関わり、実践していこうとする生徒</li> <li>・将来の自分の生き方も含め、様々な人とともに生きていくためにはどうすればよいかを考える生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土に目を向け、地域に働く人たちや産業の様子を知ろうとする生徒</li> <li>・豊かな郷土を築き、将来の生き方を含め、郷土と共に、生きていく自分達の姿を考えられる生徒</li> <li>・学習を進めながら「学び方」を身に付ける生徒</li> <li>・自分の体験や考えが他に工夫して伝えられる生徒</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境や環境問題、その対応策に関心を持ち、意欲的に調べようとする生徒</li> <li>・環境や環境問題に関する問題解決のための技能、思考力、判断力を持った生徒</li> <li>・活動の中で「学び方」を身に付けるとともに、自分の考えを、他に工夫して伝えられる生徒</li> <li>・自らの生活を見直し、進んで環境を保全していこうとする心情や自薦的態度を身に付ける生徒</li> </ul>
---	---	---

年間学習計画

月	全校タイム	1年	2年	3年
4	JRC活動の世界2	JRCとは2	JRCとは2	JRCとは2
5		オリエンテーション2、校外学習準備6	オリエンテーション2、校外学習準備6	オリエンテーション2、コース別オリエンテーション2
6	市長とのトーク2	校外学習6、市政への関心2、校外学習まとめ6	校外学習6、市政への関心2、校外学習まとめ6	個人テーマ設定2、計画立案2、市政への関心2、調査活動2
7	人権学習2	コース別オリエンテーション2、個人テーマ設定2、人権について学ぶ2	職場体験場所決定2、職場への質問等準備2、人権について学ぶ2	校外学習(市立博物館見学)6、校外学習まとめ4、人権について学ぶ2
8		計画立案2	職場との打ち合わせ2	調査活動2、高校訪問準備2
9		調査活動6、体験学習6	職場体験学習6、体験発表準備4	高校訪問6、調査活動6
10	学年毎に実施(講演会)2	福祉の世界と課題2、中間まとめ・振り返り2、調査活動2	職業の世界と課題2、発表準備、発表練習4	環境問題と人の世界2、学年発表会準備6、学年発表会2
11		まとめ6、学年発表会2	学習発表会2、地区中文連発表準備4、クラブ下体験4	個人レポート作成6
12	全校発表会2	全校発表会1、活動反省とアンケート	全校発表会2、活動反省とアンケート1、先輩と語る会準備6	全校発表会2、活動反省とアンケート1
1		身近な職業調べ発表会4	先輩と語る会まとめ2、修学旅行準備2	卒業文集作り4
2	新たな出逢い甲斐を語る2	文集作り4、生き方を語る2	修学旅行準備4、生き方を語る2	卒業文集作り4 生き方を語る2
3		文集作り2	修学旅行準備2	卒業に向けて2
	(12)	71	79	73

教科との関連

国語科 第一学年 年間指導計画					社会科 第一学年 年間指導計画						
月	単	教材名<文章作品>	時数	学習事項	総合・その他	月	単	教材名	時数	学習事項	総合・その他
4	新しい出会い	言葉で伝えるよ 友情ってなんだらう 親友	2	自分の思いや感想を言葉にしてつた	写真、絵、イラストの手法が総合的な学習と関連	9	いろいろな地域を調べよう	身近な地域を調べよう	9	縮尺、等高線、方眼、地図記号、読図、地域の観察、土地利用、人口、産業を自然な形で調査し、まとめること発表会	内容、手法ともに総合的な学習に 関する地域をもとにした レポートやマップをつくり発表させる。
5		書くことの学習 書く材料を見つける	3	身近な生活の中からも必要な材料を集める。		手法が総合的な学習と関連		1	地形図から地域を調べよう (1) 地形図をよみこまを (2) 地形図をよみこまを (3) 地形図をよみこまを (4) 地形図をよみこまを (5) 地形図をよみこまを		

(1) 事例分析の視点

前述した一部補訂学習指導要領の第1章第3の4「総合的な学習の時間の全体計画」に基づき、次の視点から事例の分析と考察を行った。

総合的な学習の時間の目標の明確化
1 総合的な学習の時間の目標
2 育てたい資質や能力及び態度
3 学年（学級）における目標
総合的な学習の時間における学習活動の計画化
1 学習活動の内容
2 学習活動の評価
総合的な学習の時間における指導方針の確立
1 指導方法及び指導体制
2 各教科等との関連
3 家庭及び地域等の活用・連携
総合的な学習の時間の全体計画の評価・検証
その他
・ 学年間、小中学校等の関連      ・ 指導計画等の見直し

(2) 分析と考察

《 総合的な学習の時間の目標の明確化》

- 1 「総合的な学習の時間の目標」

学習指導要領には「総合的な学習の時間のねらい」として、次の3点が示されている。

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てること。
学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること。
各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

杜陵小学校の総合的な学習の時間の目標は、次のとおりである。

<u>体験的な学習や問題解決的な学習を通して、地域の素晴らしさに学びながら、児童に自ら学び自ら考える力を育成し（ ）</u> 、 <u>学び方やものの考え方を身に付けさせるとともに、自己の生き方について考えることができるようにし（ ）</u> 、 <u>各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが相互に働くようにする（ ）</u> 。
---

杜陵小学校の目標のおさえは、学習指導要領に示された三つのねらい（ ～ ）と学習活動の展開に当たっての配慮事項である「体験的、問題解決的な学習」が基軸となっている。さらに、

「地域の素晴らしさに学びながら」という学習活動の内容や方向性を明示することによって自校の特色を表している。

学習指導要領の内容や表記を基本に、自校の特色を付加しているパターンは、収集した事例に最も多くみられた。

次に、花巻北中学校の目標は次のとおりである。

人に学び「生きる力」の育成を図る - 自立と共生 -

「読む、聞く、書く、話す」力を育て、発展させる。

「調べる、まとめる、表現する」力を育て、自信と誇りを持たせる。

花巻北中学校は、学校独自の目標を掲げている。総合的な学習の時間の趣旨に謳う、それぞれの学校の創意工夫による展開ということに沿った目標のおさえ方も学校数としては多い。ただ、目標のおさえが能力のみに偏重したりする傾向もある。全体計画における「育てたい資質や能力及び態度」の明示とあわせ、総合的な学習の時間のねらいとの整合性等に考慮しながら改善していく余地はあるものとする。花巻北中学校では、目標に能力を、「身に付けさせたい力」に学び方を、それぞれ意識した設定をしている。

#### - 2 「育てたい資質や能力及び態度」

「育てたい資質や能力及び態度」の明確化は、学習指導要領補訂の大きなねらいの一つとも言える。その背景には、総合的な学習の時間でどのような力が身に付くのか、身に付けたいのかを、それぞれの学校が明らかにし共有することなく、実践がスタートしたことによる混乱がある。つまり、ゴール像を持たない取組が、その意味付けができない、評価・検証が的確に行えない、また評価結果を改善にフィードバックできない等の戸惑いや不安を与えた。

このような状況を勘案しながら事例をみると、収集した多くの学校が目標を具体化させた「育てたい資質や能力及び態度」の明示を行っている。

杜陵小学校は、「学び方」「自分の考えをもつ」「学びを生かす」という資質や態度的な色彩の強いものを掲げ、表現はやや抽象的ではあるが、それを各学年の目標、評価観点と連動させ具体化を図っている。さらに、「自分の考えをもつ」とことと「総合的な思考・判断」、「学びを生かす」とことと「総合的な知識・理解」というように能力的なものもうまく調和させている。

花巻北中学校は、「問題発見能力」「問題解決能力」「表現力」という能力を規定している。「身に付けさせたい（育てたい）力」という項目の起こし方、評価・測定との関連から、このような能力を規定している事例は多い。ただ、総合的な学習の時間が何らかの特定の能力の習得に限定されるものではないというねらいに留意する必要がある。

#### - 3 「学年（学級）における目標」

学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度が大きな遠くのゴール像であると位置付ければ、それと目の前の児童生徒個々を結ぶ（見取る）学年あるいは学級の目標が必要となる。これは、指導する側にとどまらず、実際に児童生徒が学習活動を展開する上での当面の近いゴール像とも言い換えられる。

また、学年目標であれば個々の学級とのかかわりや学年間の連続性に、学級目標であれば児童生徒個々とのかかわりや他学級との整合性等に留意する必要がある。

以上の考えに基づき両校の計画を概観する。

杜陵小学校の学年目標は、具備すべき内容及び各学年間の連続性が的確に位置付けられており、実際の学習活動（指導）を構想・展開する上で大きな拠り所になり得るものと言える。

花巻北中学校は、「目指す生徒像」として到達の姿を強く意識した位置付け方をしているところに特徴を見出すことができる。これは、生徒とのゴール像の共有という点からも効果的であると考え。

#### 《 総合的な学習の時間における学習活動の計画化》

##### - 1 「学習活動の内容」

学習活動の内容については、今までも年間指導計画や単元計画の作成等で整備が進められ、各学校の特色を生かした学習活動が数多く創出、展開されてきている。事例としてあげる両校も、総合的な学習の時間の創設期からの取組の積み上げがあり、学習活動そのものは練り上げられている。今、全体計画とのかかわりの中で学習活動の内容を問題にする意義は、学校全体の目標や育てたい資質や能力及び態度を具現する位置付けや内容となっているかを検証する必要がでてきたことにある。

両校とも、このことを取り込み計画化している。目標からの筋道も一貫しており、分かりやすい。

杜陵小学校は、単元の名称も内容が予想できるとともに、興味を引くように工夫されている。改善の余地としては、各教科等との関連の在り方（後項 - 2 詳述）や地域・家庭への発信・還元の在り方（後項 - 3 詳述）等の吟味が考えられる。

花巻北中学校の「年間学習計画」の位置付けは、内容の配置や時数配分が一覧でき、活用に資するものとなっている。また、教科との関連を教科側に立ち、年間指導計画に位置付けているところは参考にしたい。さらに、総合的な学習の時間で身に付けた力を吟味・分析し、関連内容の具体化を進めれば一層充実するものと考え。

##### - 2 「学習活動の評価」

総合的な学習の時間の目標、育てたい資質や能力及び態度が明確に位置付けられてきたことと相俟って、学習活動の評価にかかわる取組も広がりを見せている。評価観点の明確化とそれに沿った評価規準の設定、新たな評価方法の開発、そしてそれらを位置付けた評価計画の作成が小学校を中心に進められている。

全体計画における評価計画の位置付けは重要であり、杜陵小学校は、評価観点を取りだし位置付けている。評価観点の設定に当たっては、教育課程審議会答申「児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価の在り方について」（平成12年12月）の中で、総合的な学習の時間のねらいを踏まえ、教科との関連を明確にして、各学校の定める目標、内容に基づき、という例示がなされている。杜陵小学校の評価観点は、目標と密接なかかわりを持たせながらこれら三者を融合させ、設定されている。また、評価計画へ通じるものとして全体計画に位置付けているところに大きな意味があると考え。評価計画の作成はもとより、このような全体計画への位置付けを明らかにする例は稀少であり、他校でも参考にしたい点である。

#### 《 総合的な学習の時間における指導方針の確立》

##### - 1 「指導方法及び指導体制」

指導方法や指導体制を特設して位置付けるまでもなく、全体計画作成そのものがその学校の指導方針確立の集大成であり、具体であると考えることができる。しかし、総合的な学習の時間は、児童生徒「自ら」の学習活動をどのように「演出（指導）」していくか、という指導の方法や体制の在り方で、各学校の創意工夫が発揮できる裁量の幅は、教科と比較しても決して小さくはない。そこに、指導方法及び指導体制を特設して位置付ける意義を見出すことができ、その学校の総合的な学習の時間に対するとらえや取組の姿勢が、特色として浮き彫りにされることになる。

事実、今回収集した事例で稀少とも言える、指導過程（実際には学習過程の表現になっているが）を位置付けている杜陵小学校の「発信する」「自分を見つめる」からは、自校の総合的な学習の時間に対する思いや考え方を読み取ることができる。

また、花巻北中学校は取り立てた「指導」の項目は設定してはいないが、「身に付けさせたい力」「目指す生徒像」の内容として、指導側の基本姿勢や指導内容、指導の流れ等が位置付けられている。

#### - 2 「各教科等との関連」

学習指導要領の一部補訂において、総合的な学習の時間のねらいとして、新たに次のものが位置付けられた（第1章第3の2）。

(3) 各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

この背景には、総合的な学習の時間の実施上の課題として、各教科等との関連に十分な配慮がなされないまま実施されている例が多く見受けられたことがある。

また、総合的な学習の時間でどんな力が身に付くのが明らかにされてこなかったことや、「知の総合化」の曲解からくる、教科から総合的な学習の時間へ、という一方向の関連付けのみが意識され、総合的な学習の時間で身に付けた資質や能力、態度等を各教科等の学習において生かしていく、いわゆる双方向の関連付けが十分になされていないという状況がある。

実際、収集した事例の多くは次のような特徴や傾向を持っている。

多くの学校は、「何らかの」各教科等との関連を位置付けている。  
そのほとんどが、「教科における『学習内容』」の関連付けである。  
総合的な学習の時間から各教科等への関連付けの具体を明示している学校は少ない。  
関連付けの具体的な方法に言及している学校はほとんどない。

これらのことを考える時、花巻北中学校の「教科の年間指導計画」に総合的な学習の時間との関連を明示する欄を設けていること、杜陵小学校の教科を絞り込み、関連内容を焦点化していることは、それぞれ改訂のねらいに合致したものと言える。

今後各学校では、総合的な学習の時間で身に付けられる資質や能力、態度等を明らかにしていくとともに、それが、各教科等の「何と、どこで、どのように」関連を持つものを明らかにしていく必要がある。そして、明らかになった関連を、どのように相互に強化、深化していくかという具体的な指導の計画を持たなければならない。

#### - 3 「家庭及び地域等の活用・連携」

学習指導要領の一部補訂において、総合的な学習の時間の学習活動の展開に当たっての配慮事項として、次のものが明確に位置付けられた（第1章第3の6）。

(4) 学校図書館の活用、他の学校との連携、公民館、図書館、博物館等の社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて工夫すること。

改正前にも述べられていた内容であるが、今回配慮事項として明確に位置付けられた理由は、地域の実態や特色に応じた課題や内容を取り上げて学習活動を展開する学校の多さを背景に、この時間の学習活動をより一層充実していく上で、地域等の活用・連携は必須であり、積極的な対応が求められていることにある。「他の学校との連携」や「NPO等の民間団体との連携」等、時代や実践実態に即したのも新たに付加されている。

収集した事例の特徴や傾向は、次のとおりである。

家庭及び地域等の活用・連携を具体的に位置付けている学校は少ない。  
地域の特色を課題に取り上げていながら、全体計画へ位置付けていない学校も多い。  
地域からの活用、支援が多く、地域への発信・還元の在り方等の内容は見られない。  
活用の内容は、教育資源、施設、人材がほとんどである。

杜陵小学校は、目標に「地域の素晴らしさに学びながら」と掲げ、学習活動のほとんどが地域の特色を生かした単元で展開していることもあり、明確な位置付けがなされている。その中で、「知識人の協力、支援」や「支援ボランティア」「家庭への広報活動」等にその特徴が読み取れる。また、指導過程の「発信する」対象に家庭・地域を取り込み、その具体的な内容を位置付けることによって、「発信・還元」の新しい在り方として、さらに「連携」の本来の姿として、一層他校の活用に資するものになると考える。

#### 《 総合的な学習の時間の全体計画の評価・検証》

全体計画そのものの評価・検証についての記述や位置付けは、今回の収集事例には見られなかった。各学校においては、全体計画及びそれに連なる年間指導計画等を踏まえ、計画的な指導に努めることはもとより、適宜自己評価等を実施し、計画を不断に検証し、改善を図っていくことが求められる。そして、その結果を次年度の全体計画や日常の指導等に確実に反映する、いわゆる「P（計画）- D（実施）- C（評価）- A（改善・更新）」の評価サイクルを確立し、着実に実施していかなければならない。その際、前述したとおり、総合的な学習の時間の各学校に委ねられる裁量の幅、柔軟性は教科等の比ではなく、当初の計画を固定的なものとしてとらえるのではなく、必要に応じて適宜見直していくという姿勢を持つことが肝要である。また、学年間や近隣の学校間で実施上の情報や意見の交換等を行うことも効果的であると考えられる。

#### 《 その他》

##### 学年間、小・中学校間の連携

学年毎、学校段階毎の目標や学習活動が相互に関連付けられ、連続的に展開できるように配慮することが大切である。そのためには、従来行われてきた学習内容の具体レベルでの関連を中心とした吟味にとどまることなく、「身に付けた資質や能力及び態度が次学年以降の身に付けたい資質や能力及び態度にどのように生かされるのか」を起点とし、そのためには「どのような学習活動を用意すればいいのか」という発想に立った全体計画の作成が望まれる。

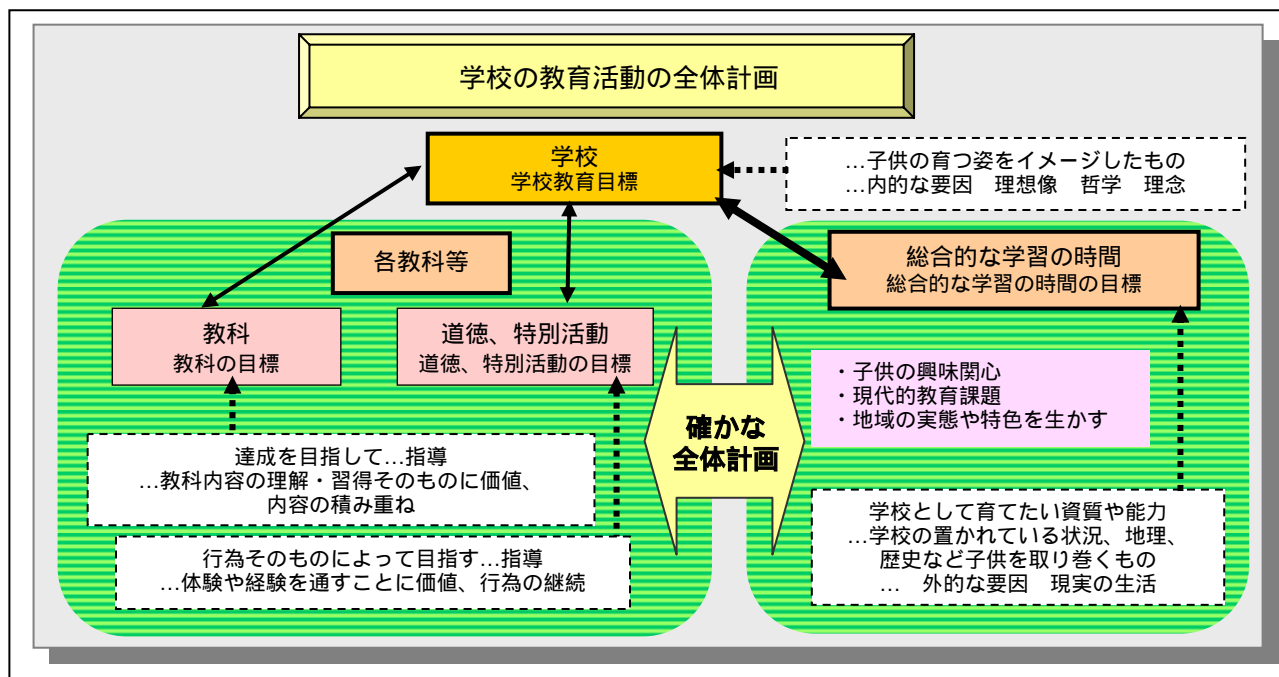
##### 指導計画等の見直し

総合的な学習の時間のねらいに、全体計画の作成が掲げられたことにより、各学校ではその作業に着手することになる。ただ、その際留意したいのは、全体計画が単独で存在するものではなく、それに連なる指導計画や評価計画、単元計画等のすべてを包み込むものが全体計画である、ということの再確認が求められる。

### 3 総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案

#### (1) 総合的な学習の時間の位置付け

下の【図2】は、学校の教育活動における各教科等と総合的な学習の時間を示したものである。学校の教育活動全体といったものをさす場合には学校教育目標のほか、学校行事や指導すべき事柄などとの関係を示す場合もあるが、ここでは各教科等と総合的な学習の時間との関係から全体計画をとらえたものである。



【図2】 学校の教育活動における各教科等と総合的な学習の時間

各教科等と総合的な学習の時間との関係は、並列的なものとしてとらえるべきではない。総合的な学習の時間は、学校教育目標として掲げた「育てたい児童生徒像」の実現を目指すための資質や能力の育成と関連が深く、その学習活動は児童生徒の問題解決に際して、各教科等とで身に付けた知識や技能等を関連付け、総合的に学習に生かしていくことをねらいとするものである。

「確かな全体計画」の作成は、児童生徒にとって将来欠かすことのできない「生きる力」の礎となる学びを達成するために、総合的な学習の時間と各教科等との関係を明らかにすることを意味している。それは、それぞれの学びの関係について、関連付けが図られているか、総合的に働いているかどうか、検討と吟味を行うことになるからである。

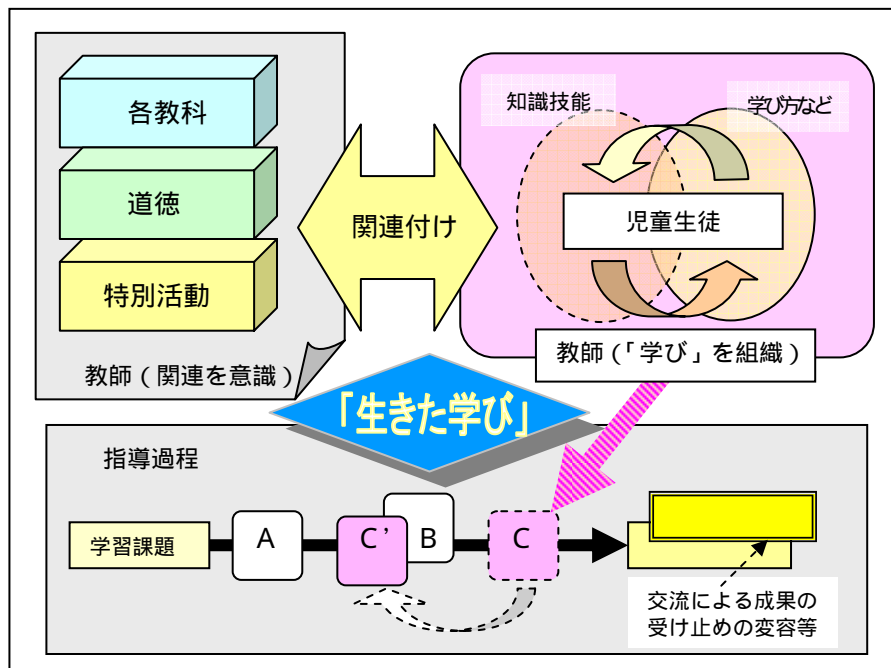
教育活動全体における総合的な学習の時間の在り方として次の視点から検討する。

- ・ 学校教育目標を踏まえた学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の位置付け
- ・ 総合的な学習の時間で育みたい児童生徒の資質や能力の明確化
- ・ 総合的な学習の時間と各教科等との関係

#### (2) 総合的な学習の時間と児童生徒の学び

総合的な学習の創設の理由として、従来の教育が、知識の教え込み中心の授業のため、学び方、考え方、学ぶ意欲等が身に付いていないという背景がある。「学び方を学ぶ」など、学習の主体者である児童生徒の「学びの質の転換」を図ることが求められているのである。

総合的な学習の時間は、学習の主体者である児童生徒の「学びの質の転換」が前提となっている。そのため、教師があらかじめ目安とする指導過程の順序も、直接体験等による予想外の出来事によって効果的に「学び」を入れ替える必然性と必要性が生じることが考えられる。児童生徒にとっては、問題解決のため、機知や機転の求められる「生きた学び」に直面し、各教科



【図3】 児童生徒の学びに対応した柔軟な指導過程

等で既習の「学び」を応用しなければならない場面である。そのような「生きた学び」が指導過程の中に盛り込まれるように、多様な関連や関係付けの可能な要素を含んだ題材や単元を構成し、学習を展開しなくてはならない。そのため学習も個別の展開となりそれぞれの「学び」の蓄積も個別のものとなるのである。さらに、学習課題の解決等にかかわった地域の人などとの交流や導き出された学習の成果を仲間とともに分かち合うといった事柄が次の意欲や興味・関心に結び付く。学習者である児童生徒の「学び」は、学習課題解決の過程で多様な様相を示し、常に変化を伴うのである。すなわち、【図3】のように、児童生徒の学びに対応した柔軟な指導過程が必要になるということである。

それら多種多様な「学び」の過程が検証を受け、育てたい資質や能力に結び付いているかどうか、児童生徒の学びが「学びの質の転換」に沿ったものとなっているか、「確かな全体計画」は、指導過程の構築のために役立てられるものである。

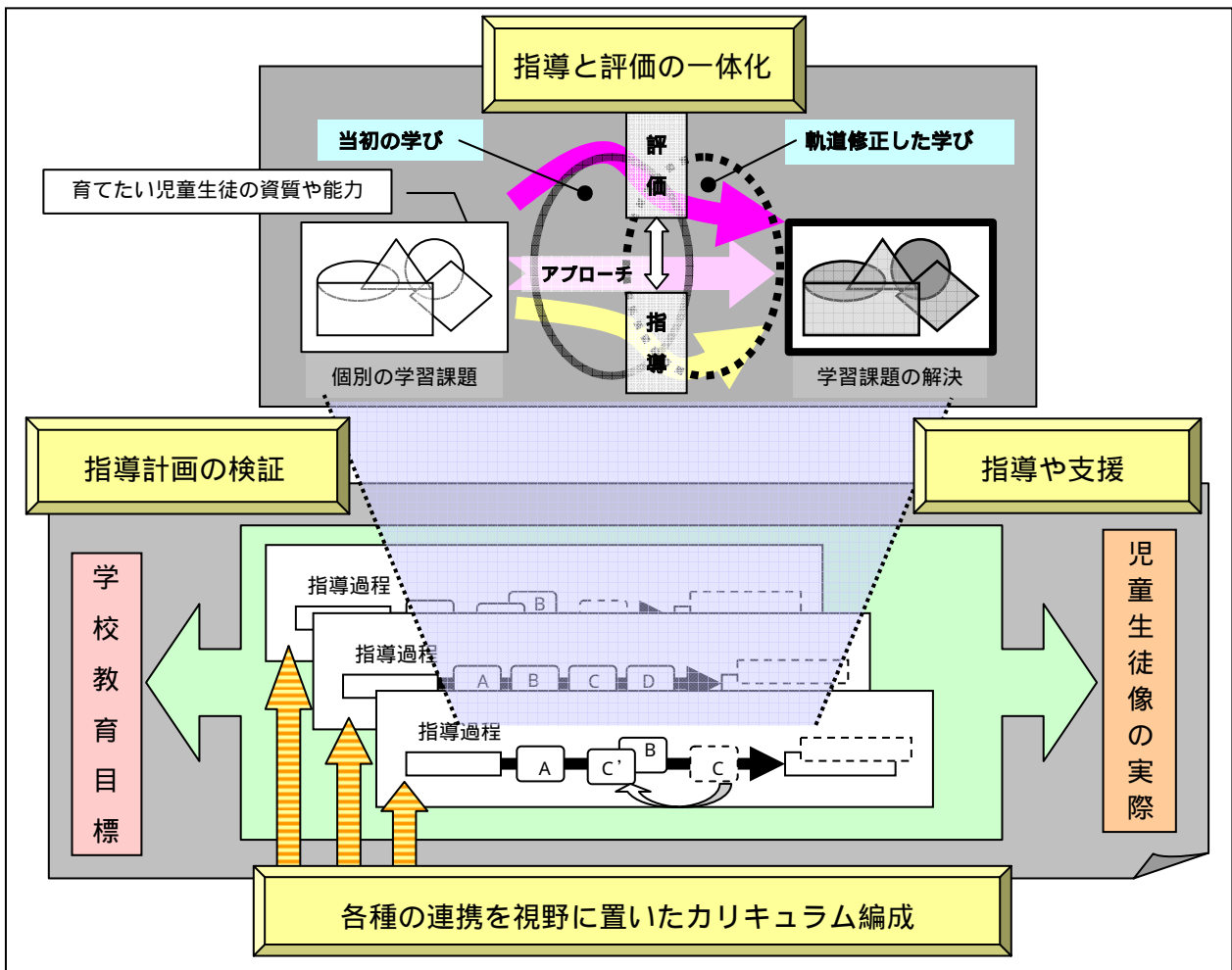
児童生徒の学びのための総合的な学習の時間の学習の在り方として次の視点から検討する。

- ・学習者中心の「学び」、問題解決的な「学び」など総合的な学習の時間の指導過程の吟味
- ・児童生徒の「学び」の状況に対応した、総合的な学習の時間の柔軟な指導過程の構築

### (3) 総合的な学習の時間のカリキュラム

「学びの質の転換」は教師の側にも変化を求めている。教えるべき知識や技能の教授だけであった授業から、児童生徒にいかにして「生きる力」に結び付く「学力」を身に付けるかを授業の中核としなければならない。知識や技能の「何を」抽出して教えるかであったものが、児童生徒の学習のプロセスを重視し、学習過程に沿って「いかに」して意欲を高めるか、学び方を身に付けるかをまず考えなければならないということである。そして、その学力は授業の一場面だけで身に付いたと容易に判断できるようなものではない。様々な学習のプロセスにおいて活動を伴った際、学力の表れ方や活用をもって「学び」の状況を判断し、修正や改善を加えながら多様なアプローチによる指導過程が構成されなければならない。そこで、次頁【図4】のように、そのための指導と評価の





【図4】 カリキュラムにおける開発・編成上の留意点

一体化等が全体として実施されることが一層期待されるのである。また、先に述べた総合的な学習の時間のカリキュラム編成や開発の点から、教師が学校の教育活動全体において、各教科等との関連を考え、どのような内容と活動がふさわしいか、連携することを視野においてカリキュラム編成を考えていかななくてはならない。そして、学校教育目標の達成のために付けたい力や教師の願いなど、児童生徒の実態から出発し、達成に向けて教師が意図的にカリキュラムを編成し、総合的な学習の時間の目標と照らし合わせながら検証し、改善を図っていくことが何よりも求められるであろう。

総合的な学習の時間のカリキュラム編成の在り方として次の視点から検討する。

- ・ 単元や題材と指導と評価の一体化及び指導過程の検証
- ・ 学び方の違いに応じた指導や支援
- ・ カリキュラム開発者、編成者としての教師の資質向上と力量形成

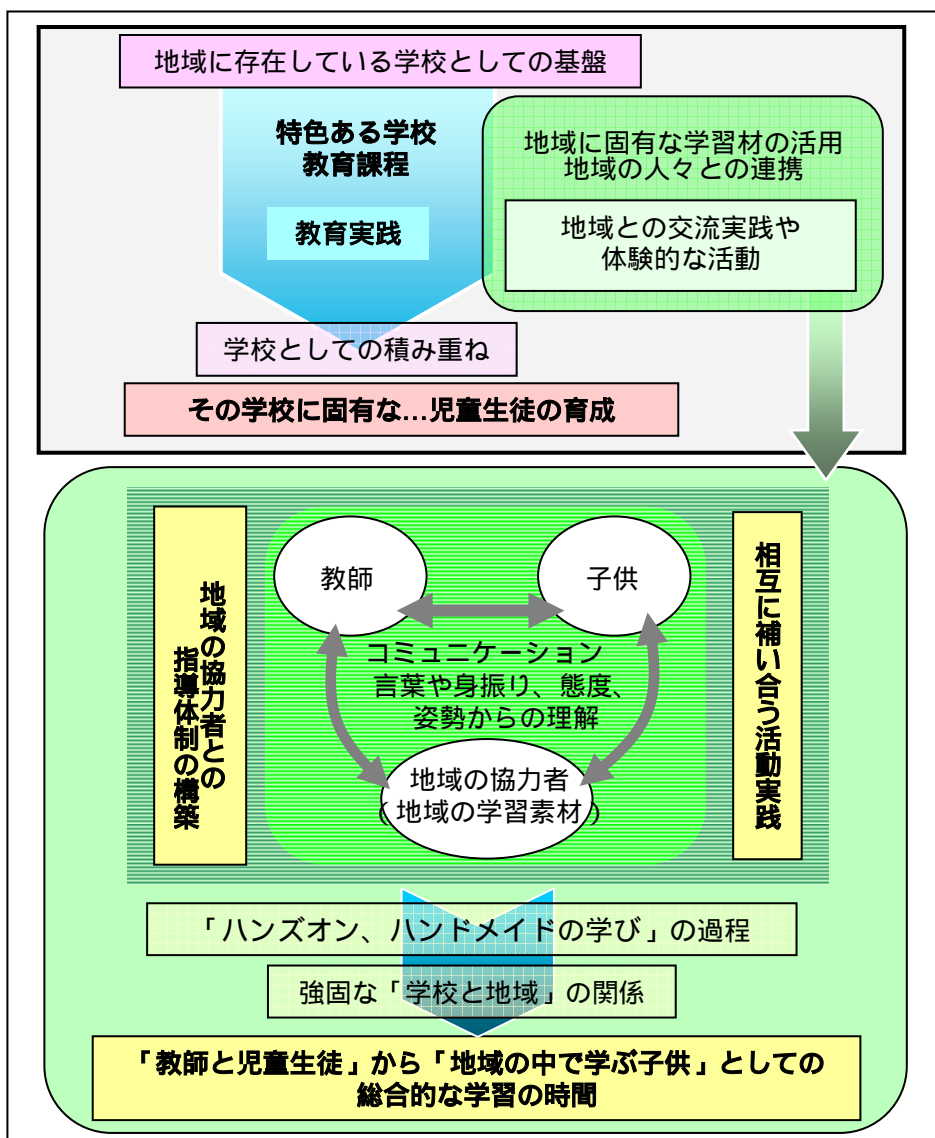
#### (4) 総合的な学習の時間における地域社会との連携

学校に固有なあるいは希有な個性や特色を鮮明に打ち出すというよりも、地域に存在している学校としての基盤を固めるということに意味と意義がある。児童生徒の生活の現状と実態を踏まえた教育実践を重ねることを通して、地域に存在している学習の材料を用いたり、地域の人々との連携を進めたりすることが求められているのである。学校や子供について地域の願いを交流実践や体験活動を通して理解したり関係を深めたりすることも必要である。その場限りのパフォーマンスやイ

イベントを実施すること、その場しのぎに他校の実践をそのまま移植するようなことから学校の色は生まれない。学校として積み重ねてきた地域との交流実践や体験的な活動の役割を改めて読み取り、総合的な学習の時間の推進によって現れてくる学校の色を教育課程の中に適切に位置付けることが、その学校に固有な児童生徒の育成に結び付くのである。

地域の実態や素材を生かした総合的な学習の時間の実施は、直接体験による「ナマ（生）...未加工の素材そのもの」からでしか味わえない豊かな味わい、そして、地域に根差した人々という「ホンモノ（本物）...現実味のある存在そのもの」の材料に触れてはじめて知る深い喜びといったものをもたらすはずである。

その過程において、地域の協力者との指導体制の構築を通じて教師と協力者が互いにコミュニケーションを重ね情報交換を繰り返す。また、協力者と子供たち間で言葉が足りなくとも身振りや態度、姿勢などから理解しあえたりする。そのような総合的な学習の時間を互いに補い合いながら作る「ハンズオン（hands-on）ハンドメイド（hand-made）の学び」の過程こそ「学校と地域」の関係を作り上げ強固なものとするようになるのである。教室の中に閉ざされ「教師と児童生徒」に限られた教育活動が、実践の積み重ねとともに「地域の中で学ぶ子供」として【図5】のように社会の中に次第に位置付けられていくことが総合的な学習の時間に期待されているのである。



【図5】 「特色ある学校」と地域社会における総合的な学習の時間

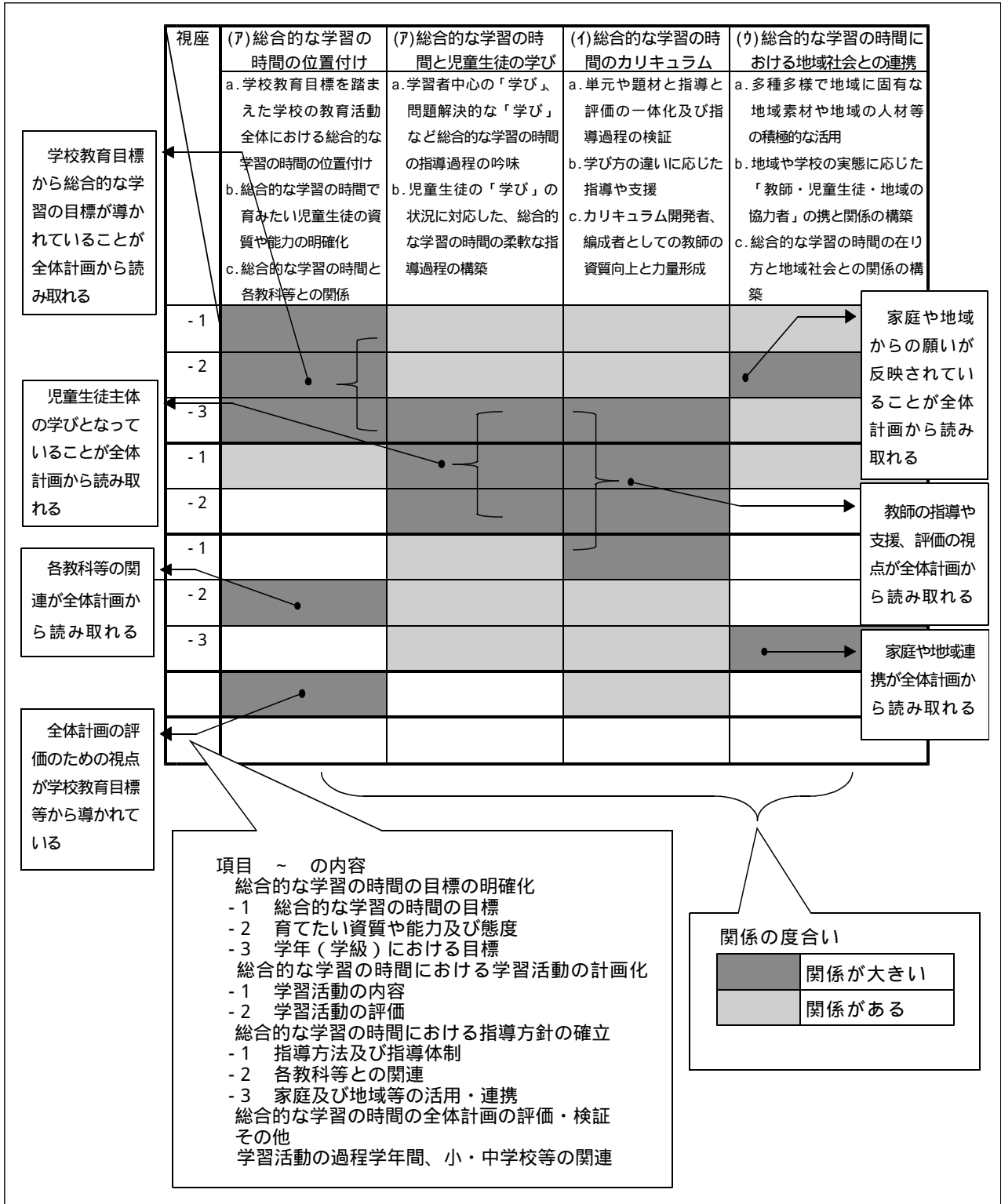
ねとともに「地域の中で学ぶ子供」として【図5】のように社会の中に次第に位置付けられていくことが総合的な学習の時間に期待されているのである。

総合的な学習の時間の地域における在り方として次の視点から検討する。

- ・ 多種多様で地域に固有な地域素材や地域の人材等の積極的な活用
- ・ 地域や学校の実態に応じた「教師・児童生徒・地域の協力者」の連携
- ・ 総合的な学習の時間の在り方と地域社会との関係の構築

(5) 先進校事例における全体計画作成のための改善点と特色について

学校としての全体計画の考え方等を明確にするために、分析・考察の視点に基本的な視座を重ね合わせ検討を行った。【図6】に示した読み取りの観点に基づいて、押さえておきたい事柄の関係の度合いを3段階に定めた。読み取りに際しては、判断に全体計画のみを用いたため、学校の考え方のすべてを反映したものではないことについて留意したい。



【図6】基本的な視座と分析・考察における視点

前項の検討を踏まえ、先進校事例を再度概観し、全体計画への位置付けの状況が顕著なものを校種毎に記号（小学校： 中学校： ）を付し、下の【表2】に示した。

【表2】全体計画への位置付けの状況

視座	(ア) 総合的な学習の時間の位置付け	(イ) 総合的な学習の時間と児童生徒の学び	(ウ) 総合的な学習の時間のカリキュラム	(エ) 総合的な学習の時間における地域社会との連携
項目	a. 学校教育目標を踏まえた学校の教育活動全体における総合的な学習の時間の位置付け b. 総合的な学習の時間で育みたい児童生徒の資質や能力の明確化 c. 総合的な学習の時間と各教科等との関係	a. 学習者中心の「学び」問題解決的な「学び」など総合的な学習の時間の指導過程の吟味 b. 児童生徒の「学び」の状況に対応した、総合的な学習の時間の柔軟な指導過程の構築	a. 単元や題材と指導と評価の一体化及び指導過程の検証 b. 学び方の違いに応じた指導や支援 c. カリキュラム開発者、編成者としての教師の資質向上と力量形成	a. 多種多様で地域に固有な地域素材や地域の人材等の積極的な活用 b. 地域や学校の実態に応じた「教師・児童生徒・地域の協力者」の連携 c. 総合的な学習の時間の在り方と地域社会との関係の構築
- 1				
- 2				
- 3				
- 1				
- 2				
- 1				
- 2				
- 3				

「確かな全体計画」作成のための基本的な視座に照らし、今後改善が必要と思われる問題状況として、次の6点があげられる。

学校教育目標を踏まえた総合的な学習の時間の目標設定になっていないこと  
 全体計画そのものの評価・検証にかかわる記述・計画等の位置付けがなされていないこと  
 単元レベルでの指導過程や評価観点等の位置付けが十分ではないこと  
 指導方法や指導体制等の具体的な位置付けがなされていないこと  
 地域とかかわりの深い学習活動を展開していながら、具体的な連携の姿や育てたい力等への反映・位置付けが十分ではないこと  
 中学校では「学習活動内容」「学習の評価」「地域との関連」等の位置付けが十分ではないこと

このような問題状況を踏まえ、全体計画の作成及び改善に向けた方向性を次のとおりまとめた。

ア 総合的な学習の時間の位置付け  
 学校教育目標の具現、達成を目指した総合的な学習の時間の目標であることを考え、より一層両者の関係を明らかにしていくこと  
 育てたい資質や能力及び態度の関連や調和を図るとともに、一層の具体化に努め、学年や学級

の目標への反映に努めること

全体計画そのものを検証するために、学校教育目標の具現化に向けた年度毎の重点や改善の視点等を補足すること

今後、各教科等との関連を考えていく際には、次の6点に留意すること

総合的な学習の時間と教科等との双方向の関連付け

「内容」「資質・能力」「児童・生徒の意識」等、関連内容の明確化

「全体計画」「年間計画」「単元計画」「単位時間計画」等、指導段階の明確化

小学校では生活科との連結、中学校では選択教科との関連

生徒指導、保健指導等の他領域・分野との関連付け

関連内容及び関連方法の具体化

#### イ 総合的な学習の時間と児童生徒の学び

児童生徒の「学び」を大切にした柔軟な指導過程の構築に努めるとともに、全体計画の中に位置付けていくこと

児童生徒にとって「当面の近いゴール像」ともいべき学年・学級の目標には、場面・機会、内容、方法、到達（達成）の姿等が明確に示される必要があること

学習活動の内容を考える際には、次の4点に留意すること

目標や育てたい資質や能力及び態度の実現を目指した適切な内容となっているか。

学校の特色や学年間の関連及び連続性が見える内容となっているか。

地域・家庭との連携や各教科等との関連を生かした内容となっているか。

ねらいに即した時数や時機をとらえた内容配置となっているか。

学年や学級間はもちろん、小中学校等の学校段階での目標や学習活動の相互関連、連続性について、情報の交流を促進させ、より一層明らかにしていくこと

#### ウ 総合的な学習の時間のカリキュラム

学校の特色や学年間の関連及び連続性が見える全体計画への位置付けとすること

学年や学級に応じた指導や支援、評価と改善の在り方について補足すること

学習活動内容や指導計画を常に評価・検証できる力量を持つとともに、評価・検証の視点を計画化するよう努めること

独自性は、総合的な学習を推進する原動力である。目の前の児童生徒や地域の実態に即した指導方法の開発と固有の指導体制の構築に努め、それを全体計画に明確に位置付けること

全体計画の評価・検証について、「いつ（時期）誰が（対象）何を（項目・内容）どのように（方法）そしてどうする（結果活用）」等の計画を、可能な限り位置付け示していくこと

#### エ 総合的な学習の時間における地域社会との連携

家庭及び地域等の活用・連携を一層進め、全体計画の中に明確に位置付けていくとともに、支援や活用にとどまらない、「発信・還元」等の積極的な連携の在り方を模索していくこと

今後、家庭及び地域等の活用・連携を意識して、全体計画の作成・改善をしていく際には、次の4点に留意すること

家庭及び地域等の活用・連携の明確な位置付け  
支援や活用にとどまらない、「発信・還元」等の積極的な連携の在り方の模索  
活用・連携の対象の発掘・開発  
連携内容及び連携方法の具体化

#### (6) 確かな全体計画作成のための推進試案

全体計画の作成及び改善に向けた方向性を、次の「ポイント(Point 1 ~ 9)」に整理し、それに基づき確かな全体計画作成のための推進試案として、次頁【資料3】のようにまとめた。

Point 1 : 学校教育目標の下にその年度の重点や方針を置き、年度毎に検討を加える視点を  
持たせることによって、求める児童生徒の育成や課題の解決に結び付いたかを振り  
返り、全体計画そのものの検証を行う視点とする。

Point 2 : 目標の設定から身に付けさせたい資質や能力、評価の観点までを一体的に考える  
ことによって、総合的な学習の時間の評価のための視点を持てるようにする。

Point 3 : 児童生徒の発達や実態を考慮したものとするために、各学年ごとに目標から内容  
までを設定する。

Point 4 : 児童生徒の実態を踏まえた指導や支援をおこなうために、指導や支援の方針や配  
慮事項等を設定する。

Point 5 : 学校としての柱となる項目やテーマで全体の統一を図り、合わせて学年間の連続  
性や発展性が考慮されるようにする。

Point 6 : 各教科等との相互関連が明確となるよう、学習内容にとどまることなく、資質や  
能力、子どもの意識等のレベルも考慮して計画するとともに、途中で書き加えたり、  
修正したりしながら活用できるように工夫する。

Point 7 : 小学校では生活科との連結、中学校では選択教科等との関連、さらには小中学校  
間の連続性等について記述し、既習事項等を踏まえ、連携が図られるようにする。

Point 8 : 発信や還元等も意識しながら家庭や地域との連携を模索し、協力体制や活用でき  
る地域素材、発信内容等が押さえられるようにする。

Point 9 : 全体計画そのものを評価検証するために、時期、対象、項目・内容・方法等の目  
安を立てられるようにする。

【資料3】総合的な学習の時間 確かな全体計画作成のための推進試案

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本国憲法</li> <li>・教育基本法</li> <li>・学校教育法</li> <li>・小学校学習指導要領</li> <li>・教育課程審議会答申</li> <li>・岩手県学校教育指導指針 等</li> </ul>	<p>学校教育目標</p> <p><i>Point 1</i></p> <p>本年度の重点や方針 (児童生徒の課題...等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態、児童の思いや願い</li> <li>・学校や家庭、地域の実態</li> <li>・保護者、地域の方々の思いや願い</li> <li>・社会の要請 ・教師のねらい</li> </ul>
--	--	---

・検証や改善に結びつけるための具体的な目標として活用する。  
・現在の状況や課題等より具体的な目指す姿を明らかにし、年度ごとに検討する。

・地域や家庭からアンケート等で願いや要望を得ている場合は、具体的な姿や目標に反映させる。

*Point 2*

<p>総合的な学習の時間の目標</p> <p>1</p>	<p>・学校教育目標から導かれる児童生徒像の実現を目指して、育みたい資質や能力等を整理し、目標を設定する。また、その過程で抽出した育みたい資質や能力を明記する。</p>
<p>総合的な学習の時間において身に付けさせたい力</p> <p>2</p>	<p>・身に付けさせたい力に関心・意欲、態度を加え見取ることが考えられる。</p> <p>・教科との連携を考慮する場合は、各教科等と共通した4観点でとらえる。</p>
<p>総合的な学習の時間の評価の観点</p> <p>2</p>	

*Point 4*

1

基本的な学習(指導)過程

・学校における総合的な学習の時間の学習過程や指導方法について基本的な流れ等を示す。

*Point 3*

各学年の目標	評価の観点
第3学年	<p>・目標と評価の観点を、学年レベルの発達段階に合わせて設定する。</p>
第4学年	
第5学年	
第6学年	

3

*Point 5*

1

指導の方針、配慮事項...等

・児童生徒の発達や実態に応じた指導や支援について方針や配慮する事柄を記述する。

	時数	学習活動	
		大単元	小単元
第3学年	105		
第4学年	105		
第5学年	110		
第6学年			

2

・目標(学校及び学年)の達成に向けて、学校としての指導の一貫性を持たせる。環境、福祉などの大単元から、小単元の内容配列を示し統一性を持たせる。

・学年に応じた具体的な内容を設定する。  
・学年間の連続性や発展性が考慮された内容構成とする。

特別活動(学校行事)との関連		・各単元の内容等から特別活動(学校行事)と関連付けられるものを記述する。
教科との関連	<p>教科</p> <p>国語 …… 理科 音楽...など</p>	<p><i>Point 6</i></p> <p>・各単元の内容等から教科の目標や内容と関連付けられるものを記述する。</p>
道徳との関連		・各単元の内容等から道徳指導の目標等と関連付けられるものを記述する。

・当初は空欄でも、学習や活動の遂行とともに当てはまるものを書き入れ加えていく。

*Point 7*

生活科との関連(選択教科等)

・生活科における既習事項等から生かした資質や能力、学習内容等を記述する。

*Point 8*

地域と連携した支援体制作り

・地域において総合的な学習の時間に活用できる素材や連携について記述する。

*Point 8*

家庭と連携した支援体制作り

3

・学習活動に生かすための家庭との連携事項等について記述する。

*Point 9*

全体計画の評価計画	1学期	2学期	3学期
-----------	-----	-----	-----

1

・全体計画の評価計画について、時期、対象、項目・内容・方法等の目安を立てる。

#### 4 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する研究のまとめ

これまでの研究成果の分析と考察をとおして、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関しての基本構想、先進校事例の分析と考察、確かな全体計画作成のための推進試案について述べてきた。そこで、これまで述べてきたことから、成果と課題の2点についてまとめることとする。

##### (1) 成果

ア 確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間を推進するための基本的な考え方では、「特色ある学校づくり」「多様な学びの組織」「教師の役割と力量形成」から、総合的な学習の時間の全体計画作成が学校教育活動全体の中に位置付ける意義について明らかにできた。また、確かな全体計画作成のために、基本的な視座から推進試案と手引きの作成までの見通しを持つことができた。

イ 先進校事例の分析と考察では、事例から全体計画作成のための要件について検討を加えることができた。また、要件を全体計画に明確に反映させるために、総合的な学習の時間の身につけたい力や各教科等との関連について、学校として方向付けが必要であることを確認できた。

ウ 総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案について、基本的な視座から総合的な学習の時間の在り方の検討を加え、必要な視点を明らかにできた。

##### (2) 課題

ア 「カリキュラム」「地域社会との連携」等の視点についてさらに検討を加え、確かな全体計画作成のための推進試案の要件について吟味する。

イ 第2年次の指導実践について、学習（指導）過程等の吟味を行い、試案を生かすための具体的な方略を検討する。

以上のことから、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関しての基本構想、先進校事例の分析と考察から、確かな全体計画作成のための推進試案について見通しを持つことができた。

#### 研究のまとめと今後の課題

##### 1 研究の成果

本研究における本年度の研究の目標は、全体計画作成についての基本的な考え方の検討、基本構想の構築、総合的な学習の時間についての先進校事例の分析と考察、総合的な学習の時間における確かな全体計画作成のための推進試案の立案であった。

ここでは、これらの研究内容についてまとめを行うこととする。

##### (1) 全体計画の作成についての基本的な考え方の検討と基本構想の構築

全体計画の作成についての基本的な考え方に基づき、確かな全体計画に基づいた総合的な学習の時間の推進に関する基本構想を立案することができた

##### (2) 総合的な学習の時間についての先進校事例の分析と考察及び確かな全体計画のための推進試案の立案

先進校事例の分析と考察等により全体計画の要件について検討を加え、確かな全体計画作成のための推進試案を作成することができた。



## 2 今後の課題

本年度の研究を踏まえ、次年度は、具体的な指導実践をとおして、確かな全体計画作成のための方を策を明らかにし、手引きの作成を行う。そのため、指導実践の分析と考察、指導実践にあたってのカリキュラムの検討など、学校の実態に即した指導実践の展開を構築していくことが必要であると考え

おわりに

この研究を進めるに当たり、ご協力いただきました研究協力員の先生方及び関係教育機関に感謝申し上げます。

### 【引用文献】

山口 満，(2001)，『現代カリキュラム研究』，学文社，p. 5

### 【参考文献】

浅沼 茂，(2000)，『教職研究 3月増刊号 「総合的な学習」指導の手引き No.6 総合的な学習のカリキュラムをつくる』，教育開発研究所

安彦 忠彦，(1997)，『新版カリキュラム研究入門』，勁草書房

天野 正輝，(1999)，『総合的な学習のカリキュラム創造 教育課程研究入門』，ミネルヴァ書房

天野 正輝，(2001)，『カリキュラムと教育評価の探究』，文化書房博文社

児島 邦宏，(2003)，『総合的な学習ハンドブック』，ぎょうせい

佐藤 学，(1996)，『カリキュラムの批評』，世織書房

柴田 義松，(2000)，『教育課程 カリキュラム入門』，有斐閣

高階 玲治，(1998)，『教職研究 2月増刊号 「総合的な学習」の実践 No.6 「総合的な学習」の展開と技術』，教育開発研究所

日本教育学会，(2001)，『新しい教育課程の創造』，教育出版